

第6学年 社会科学習指導案

日時 平成15年10月10日(金)5校時

場所 東和町立土沢小学校 6年教室

学級 6年26名(男14名,女12名)

指導者 三浦 拓朗

1 単元名 3 新しい日本の国づくりを見つめよう (二つの戦争と日本・アジア)

2 単元について

(1) 児童観

歴史学習には、どの子ども興味や関心を持ち、意欲的に学んできている。これまでの学習では、資料をもとに「考える授業」を進め、特に「調べる活動」「まとめる活動」に重点を置き、学ぶ力や考える力、調べたことを発言する力が育ってきている。また、これらの活動を通して資料を読み取る力も身に付いてきている。反面、既習事項との関連を考えたり、課題に対する予想を考えたりすることが課題となっている。

(2) 教材観

開国後の国内の近代化を前単元で学習し、国際的な歩みを本単元で学習する。本単元で、「列強の仲間入り」のための二つの戦争、「植民地支配」「第1次世界大戦の参加」「国内の民主主義の動き」等を学習していく。

日本は、「富国強兵」「殖産興業」等の政策をとると同時に、日清・日露戦争の二つの戦争で「日本の国力」の充実、「列強への仲間入り」をするため国際的な「地位の向上」、そして、長い間苦しんできた「不平等条約の改正」を図ることが大きな目的であった。しかし、日本は「韓国併合」や「植民地政策」等を行い、アジアの人々に日本が体験してきた苦しみや不満を与えることとなる。

日本の「近代化」「国力の充実」のための戦争、そして「世界に歩み出した日本」を「事象」と「時系列」を大切にし、そこに関わる「人々の願い・思い」を関連させながら学習を進めたい。

(3) 指導観

1時間の授業の中に中心資料を配置して、そこから課題を設定し、「既習事項との関連」「予想」をさせながら授業を展開したい。本単元では、「三国干渉の風刺絵」「与謝野晶子の詩」「ノルマントン号の挿絵」等の資料を活用し、既習事項との関連を図る補助資料も有効に活用したい。また、年表の作成を通して「人」の願いや「政策」等にも目を向けさせ、正しい事象の理解を図りたい。

また、人々の願いや政策そして事象が様々な角度に入り組んでいるところでもあるので、「知らせること」「調べること」をはっきりさせながら本単元を進めたい。

3 単元の目標

日清・日露の二つの戦争を軸に、条約改正・韓国併合等、日本が歩んだ国際化の経緯を調べ、我が国が近代国家として発展してきたことを理解する。

4 単元の主な評価規準

社会的な事象への関心・意欲・態度	不平等条約の改正へ向けての努力と日清・日露の戦争と国際関係の変化について、進んで調べようとする。
社会的な思考・判断	日清・日露の戦争と韓国併合や不平等条約改正の経緯を通して、日本の国際的な地位が向上したことを考える。
観察・資料活用の技能・表現	絵画資料、文書資料、写真を用いて、日本の近代化の様子と大陸の人々の苦しみや社会問題について調べる。
社会的な事象についての知識・理解	日清・日露の戦争や条約改正の努力および国際問題や国内の問題について理解する。

5 単元の指導計画と主な評価規準及び留意点

時数	学習活動	展開の構想	評価規準(※)及び留意点
1 日清 日露 の戦 い	日清・日露戦争の経緯とその背景にある国際状況を調べながら、日本とアジア諸国との関係の変化についてまとめる。 日本とロシア・清との戦いについて調べよう。	・風刺絵の人物の服装や位置、関係を手がかりにそれぞれの考えを想像する。 ・日清・日露戦争について調べる。	※朝鮮半島を巡る日本・清・ロシアの関係について考えることができる。 (思考・判断)「発言」「ワークシート」 ・教科書や資料集を活用させる。 (背景・経過・結果の観点を与え調べさせる。)
1 戦争 のか げと 朝鮮 の併 合	二つの戦争による、国内の様子や中国・朝鮮の人々の暮らしの変化についてまとめる。 二つの戦争で、日本・中国・朝鮮の人々の暮らしはどのように変わったのだろう。	・人々の暮らしの変化について自分の考えをもつ。 ・与謝野晶子の「詩」に対する願いを想像させる。 ・戦争に対する日本の人々の考えや暮らしへの影響について考え、調べる。 ・戦場となった中国や朝鮮の人々の様子の変化について調べる。	※二つの戦争とアジアの人々の暮らしの変化について理解することができる。 (知識・理解)「ノート」 ・「詩」を教師側から解説し、そこに込められた「願い」をワークシートに書き込ませる。 ・戦中や戦後の様子から、国内の人々の思いや願いを教科書や資料集で調べる。 ・講和条約について知らせる。 ・「民族独立の願い」についてノートに感想を書かせる。

1 (本時) ノルマントン号事件と不平等条約改正の経緯	ノルマントン号事件を理解し、条約の改正に至るまでどのような努力があったのか調べる。 ノルマントン号事件を繰り返さないために、日本はどのような努力をしたのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵を見て、気づいたことを話し合う。 過去の不平等条約の内容を振り返る。 「条約改正」について、人々の願いや努力を調べる。 年表にまとめながら、感想をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵の人物に焦点をあて、吹き出しに言葉を書かせるなど何を物語っているのか気づかせたい。 既習の振り返りができない場合、ノートで「黒船来航」の学習記録を振り返らせる。 ※「条約改正」の経緯を資料集をもとに、時系列でまとめることができる。 (思考・判断)「ノート」 ワークシートに書き込み、考えをまとめる。
2 豊かで平等な社会	産業や社会の発展について調べ、それに関わりのある人物に着目し、調べ活動を行う。 産業や社会がどのように発達し、変わっていったのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> 世界で活躍した人物や産業・工業そして思想に焦点をあて、調べ、まとめる活動を行う。 図や年表を利用しながら、人物についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※興味をもった人物に焦点をあてることができる。 (関心・意欲・態度) ※自分の考えた方法でまとめることができる。 (技能・表現)

6 本時の指導

(1) 本時の指導 (3/5時間)

ア ねらい

不平等条約改正の発端となった「ノルマントン号事件」について理解し、条約改正までの経緯を調べることができる。

イ 評価規準と判断基準

	学習活動における 評価規準 (方法)	判断基準		
		十分満足できる	おおむね満足	支援
技能 表現	条約改正の経緯を資料をもとに時系列で調べる。 (ノート・机間巡視)	資料を自分で選択し、必要な情報を読みとりながら記入している。	必要な資料を友達や教師に聞きながら記入している。	資料や読み取りの方法などを具体的に示す。

ウ 展開

段階	学習活動	支援と評価 (※)	備考
問題の把握 10	<p>1 資料「ノルマントン号事件」から、本時の学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>ノルマントン号事件を繰り返させないために、日本はどのような努力をしたのだろう。</p> </div>	<p>・資料から気づいたことやわかることを発表させる。</p> <p>・「ノルマントン号事件」について、簡単な解説を加えたい。</p> <p>・事件の原因となった不平等条約についてノートを振り返り想起させる。</p>	<p>挿絵</p> <p>不平等条約の内容</p>
問題の追究 30	<p>2 課題解決のための予想を立てる。</p> <p>3 予想をもちながら、日本の条約改正までの経緯を調べる。</p> <p>4 調べ・まとめたことを発表しあう。</p>	<p>・どのような努力をしたのか、どのくらいの時間がかかったのか等、予想を立てさせたい。</p> <p>※「条約改正」の経緯を時系列で調べ、ワークシートに記入しているか。</p> <p>(技能・表現)「発言」「ノート」「机間巡視」</p> <p>・いつ・どこで・誰が・どうした等、まとめ方を考えさせたい。</p> <p>・個人で調べたことを隣同士で確認させながら進めたい。</p> <p>・発表を年表形式でまとめさせる。</p> <p>・条約改正の意味や当時の日本人の思い等も考えさせる。</p>	<p>ワークシート</p>
まとめ 5	<p>5 本時の学習の振り返りをノートに書く。</p>	<p>・次の観点で書かせる。</p> <p>① 今日の学習で一番大切なこと(わかったこと)</p> <p>② 次に学習したいこと</p>	